

東大で医療工学を

追手前高・三沢さん

東京大学の推薦入試で高知市の追手前高校3年生、三沢颯大さん(18)は香南市IIが工学部に合格した。東大以外は行きたくなかったという三沢さん。気胸の手術を受けたことから医療機器に興味を持つようになったとい、「自分が助けられたように、患者の体への負担が小さい医療機器を開発したい」と意欲を燃やしている。

(竹村朋子)

推薦入試で県勢連年合格

東大は2016年度入試から、卓越した能力や強い学ぶ意欲を備えた学生を確保しようと推薦入試を実施している。2回目の今回は173人が出願(募集枠は100人程度)し71人が合格した。

三沢さんは中学生のころから「レベルの高いところで好きな数学を勉強したい」との思いを持っていった。そんな中で、将来の進路をより明確にイメージするきっかけが3年生の夏にあった。

肺に穴が開いて空気が漏れる気胸を患い、高知市内の病院で手術を受けた。その際、手術で用いられたロボットアームなど医療機器の話を担当医にしても

気胸で手術経験「体負担少ない機器開発」



「多くの人に役立つ医療機器を開発したい」と話す
三沢颯大さん(高知市追手筋2丁目の追手前高校)

らった。「衝撃的で面白かった。医療機器をつくる側に興味湧き、工学部もいいなと思った」

術後2日で退院し、約1カ月後には通っていたスイミングスクールにも復帰した。「すごい。その時の感動が大きかったという。東大に志望を定めたのは高校1年生の時。物理の全国コンテストに出場するなど、興味のある分野をほとんど学び、追求した。

推薦入試の1次選考の志望動機には「海外の研究者と連携したい。英語で論理的に考えたりする議論を身に付けよう努力してきた」とアピール。2次の教授陣による面接もリラックスして臨めたという。

三沢さんは「自分のようにスポーツがしたいけれど、病気であきらめている人や体力が落ちてきている高齢者のために、体への負担の少ない手術ができるような医療機器を作って多くの人の役に立ちたい」。将来の夢をしっかりと描き、赤門をくぐる。東大の推薦入試では昨年、学芸高校生が合格している。